

物流企業番付

《平成18年版》

平成18年版 総合ランキングTOP10

(売上高、利益は単位：百万円)

総合 順位	会社名	総合評価	売上規模	利益規模	売上高 伸び率	利益 伸び率	累積 利益率	一人当 利益	所在地	決算期	売上高	利益	従業員数
		主な営業種目	大株主	主な荷主									
1	コマツ物流	527.99	96.52	97.29	96.04	68.29	75.81	94.04	川崎市	05.03	71,651	2,104	599
		運送、倉庫、機工	小松製作所、三井住友銀行、りそな銀行	コマツ、コマツ電子金属、小松ゼノア									
2	日鉄海運	518.99	91.69	89.17	94.62	88.34	56.16	99.02	東京都	05.03	30,436	810	71
		海運、利用運送	新日本製鐵、三井物産、みずほコーポレート銀行ほか	新日本製鐵、太平洋金属、日新製鋼、北海道電力ほか									
3	電気硝子物流サービス	506.76	87.49	93.36	93.51	48.81	86.20	97.39	滋賀県	05.03	21,384	722	106
		倉庫、利用運送	日本電気硝子(100%)	日本電気硝子									
4	郵船航空サービス	506.39	96.91	98.86	82.66	49.40	89.26	89.31	東京都	05.03	76,977	3,377	1,033
		利用運送(航空)	日本郵船、日本マスタートラスト信託銀行ほか	日立製作所、三菱電機、三菱商事									
5	日本トランスシティ	498.10	97.07	95.98	71.82	88.36	54.67	90.20	三重県	05.03	72,813	1,975	786
		倉庫、港湾運送、	明治安田生命、東京海上火災、東京三菱銀行ほか	イオン、住電装ロジネット、三菱化学物流、日本ポリプロほか									
6	上組	496.99	99.13	99.65	83.85	34.66	96.51	83.20	神戸市	05.03	177,855	11,077	3,534
		港湾運送、倉庫、重量物運搬据付	日本マスタートラスト信託銀行、日本トラスティサービス信託銀行ほか	JFEスチール、新日鐵、コニカミノルタ、川崎汽船、トヨタ自動車									
7	トランコム	494.38	93.19	95.55	98.06	48.59	82.45	76.55	名古屋市	05.03	37,662	1,072	785
		倉庫、運送、物流情報サービス	ラネット、日本マスタートラスト信託銀行、日本トラスティサービス信託銀行ほか	昭和冷蔵、スズケン、ユニ・チャームプロダクツ、東海コープ事業連合									
8	アルプス物流	493.56	91.53	97.38	85.51	44.72	96.68	77.74	横浜市	05.03	27,744	1,874	726
		運送、倉庫、利用運送(航空)	アルプス電気、日本マスタートラスト信託銀行、TDKほか	アルプス電気、TDK、アルパイン									
9	商船港運	493.17	72.37	86.90	86.22	66.28	88.65	92.76	神戸市	05.03	8,952	440	96
		港湾運送、倉庫	商船三井、住友倉庫、国際コンテナターミナル、国際コンテナ輸送ほか	商船三井、沖縄西濃運輸、井本商運、大島運輸ほか									
9	三菱電機ロジスティクス	493.17	98.02	98.25	68.45	60.76	76.42	91.28	東京都	05.03	84,041	2,915	918
		倉庫、運送	三菱電機、三菱電機クレジット、三菱電機ロジスティクス社員持株会	三菱電機、三菱電機グループ、キガス、ダイフク、グローリーグループ									

解説

500社ランキングを読む

三つのキーワード

このたび本誌は日本の物流企業の売上高上位約二〇〇社を対象に、過去三期の業績指標から各社の成長力や収益性を調査した。勝ち組物流企業の顔ぶれと、その強さの秘訣を探ることが目的だ。分析の結果、今日の物流企業の勝ちパターンを紐解く三つのキーワードが浮上した。連結経営、グローバル化、ビジネスモデルだ。

上に掲載したのは各種の指標を総合評価したトップテン企業だ。一〇社中五社を大手メーカーの物流子会社が占めている。一位のコマツ物流は建機メーカー最大手のコマツの物流子会社。二〇〇三年三月期に四七八億円だった売り上げが、〇四年五六四億円、〇五年七一七億円と急成長を遂げている。当期利益も〇三年の六億円が〇五年には二億円に伸びた。事業領域を物流から調達へと広げたことが功を奏した。バブル経済の崩壊以降、国内の建機市場は低迷が続いている。その影響で基本的に国内物流しか手掛けていないコマツ物流の業績も九七年の四七一億円をピークとして二〇〇〇年には三七七億円まで落ち込んだ。しかし、そこで事業ドメインを見直して、親会社の部品調達を代行する卸機能を付加したことで、市場規模縮小という逆風に打ち勝っている。

これに並行してリストラも実施。ピーク時には一〇〇〇人近く抱えていた社員を六〇〇人まで削減した。同時に情報システムの刷新などで間接業務を効率化し、浮いた人材を前線に投入することで、営業力の強化を図った。現在、外販比率は二五％程度に達している模様だ。

物流子会社に限らず、国内の事業規模縮小を穴埋めしようと、国際物流に新たな収益源を求める物流会

総合ランキング 11～30位

(売上高、利益は単位：百万円)

総合 順位	会社名	総合評価	売上規模	利益規模	売上高 伸び率	利益 伸び率	累積 利益率	一人当 利益	所在地	決算期	売上高	利益	従業員数
		主な営業種目		大株主					主な荷主				
11	富士フイルムロジスティクス	493.07	96.20	97.47	78.35	45.99	83.41	91.66	東京都	05.03	67,109	1,680	640
		倉庫、利用運送		富士写真フイルム、富士ゼロックス					富士写真フイルム、富士ゼロックス				
12	マロックス	492.86	96.75	97.82	93.91	45.26	79.65	79.48	広島県	05.03	75,176	2,103	1,385
		倉庫、利用運送		マツダ (100%)					マツダ、住友商事、ヒロクラ、王子物流ほか				
13	三洋電機ロジスティクス	487.55	95.01	91.97	83.61	72.14	49.34	95.49	大阪府	05.03	45,871	803	243
		運送、倉庫		三洋電機、三洋電機ロジスティクス従業員持株会、三井住友銀行ほか					三洋電機、ベスト電器、ヤマダ電機、三洋エアコンディショナーズほか				
14	ヤマトパッキングサービス	486.01	80.92	92.93	97.39	33.80	93.45	87.53	東京都	05.03	14,120	608	208
		梱包		ヤマト運輸 (100%)					ヤマト運輸、新キヤクビラー三菱、日経BP、スズキ、コマツ物流ほか				
15	菱光ロジスティクス	485.42	85.59	99.21	25.62	79.23	99.74	96.04	東京都	05.03	15,516	8,029	135
		倉庫、不動産賃貸業		三菱商事、エム・シー・トランスインターナショナル					三菱商事、理研ビタミン、ファーストリテイリング、ファイブフォックスほか				
16	日立物流	483.22	99.37	99.13	69.99	73.36	54.24	87.13	東京都	05.03	216,897	4,542	2,561
		運送、倉庫、利用運送		日立製作所、日本トラスティ・サービス信託銀行、中央商事ほか					日立製作所、日立グループ各社、イオン、アディダスジャパン				
17	三星海運	481.72	76.48	89.52	90.54	44.29	91.00	89.90	大阪市	05.03	10,948	1,007	157
		倉庫、港湾運送、利用運送		中山製鋼所、中山三星建材、中山通商、大中物産ほか					中山製鋼所、中山三星建材、中山通商、三井室町海運ほか				
18	旭運輸	480.49	78.15	79.30	85.63	88.17	67.16	82.09	名古屋市	05.03	11,179	377	200
		港湾運送、倉庫業		日本郵船、川西倉庫					日本郵船、東京船舶、石川島芝浦機械、ニチレイ、INAX				
19	住友倉庫	478.83	97.39	99.04	59.07	40.24	89.69	93.41	大阪市	05.03	74,111	3,148	727
		倉庫、港湾運送、不動産賃貸業		エスエフイーマックジャパンアクティブシアホルダーファンドエルビーほか					住友商事、丸紅、日本ビクター、美津濃、商船三井				
20	ハマキョウレックス	477.38	85.99	94.85	93.87	32.82	92.14	77.72	静岡県	05.03	18,935	756	423
		運送、倉庫		大須賀正孝、日本マスタートラスト信託銀行信託口ほか					ブリマハム、平和堂、スーパーレックス、ファミリーコーポレーション、デサントほか				
21	安川ロジステック	477.03	77.83	86.55	95.33	48.80	82.71	85.81	北九州市	05.03	11,872	421	181
		運送、倉庫		安川電機 (100%)					安川電機、安川モートル、安川シーメンスオートメーションドライブほか				
22	エム・シー・トランスインターナショナル	472.13	92.72	95.90	53.09	46.27	86.11	98.05	東京都	04.12	29,320	1,143	129
		運送、利用運送 (航空)		三菱商事 (100%)					三菱商事、三菱自動車工業、メタルワン、三菱重工工業ほか				
23	スミトランス・ジャパン	468.43	84.80	83.23	73.16	71.76	59.39	96.09	東京都	05.03	15,616	348	85
		倉庫、利用運送		住友商事 (100%)					住友商事、住友商事グループ、コーチ・ジャパン、ヒロセ電機ほか				
24	国際コンテナターミナル	467.21	78.54	81.48	57.60	85.28	69.43	94.88	東京都	05.03	10,887	388	88
		港湾運送		商船三井、国際コンテナ輸送					商船三井、宇徳運輸、東海運、現代商船ジャパンほか				
25	新開	467.04	92.56	96.16	61.09	72.99	87.77	56.47	東京都	04.12	29,484	1,554	1,400
		梱包、運送、倉庫		エスターエス、古賀あや、舞鶴市役所、日本電気					NECロジステクス、NECフィールド・ینگ、日本電気ほか				
26	三八五流通	466.80	90.34	93.01	57.41	49.59	77.73	98.73	青森県	05.03	24,363	800	74
		運送		三八五建設、三八五オートリース、西濃運輸、泉山元ほか					イオン、あらた、ホームマック、ピットウキョウ、三菱製紙				
27	安田倉庫	464.15	89.15	96.24	53.96	41.00	93.28	90.52	東京都	05.03	21,779	1,192	285
		倉庫、運送、不動産賃貸業		ゴールドマンサックス、損害保険ジャパン、明治安田生命保険ほか					日本アイ・ビー・エム、ジレットジャパンインク、テルモほか				
28	近鉄エクスプレス	464.11	98.34	98.34	70.63	34.64	74.06	88.11	東京都	05.03	95,881	2,115	1,120
		利用運送 (航空)、倉庫		近畿日本鉄道、日本トラスティ・サービス信託銀行、近畿日本ツーリストほか					松下電器産業、トヨタ自動車、日本電気、三菱電機ほか				
29	岩谷物流	462.67	86.06	74.50	94.50	80.04	37.82	89.76	大阪府	05.03	19,106	256	154
		運送、倉庫		岩谷産業、岩谷興産、岩谷マルキガス、岩谷瓦斯、イワタニガスネットワーク					岩谷産業、紀州製紙、岩谷瓦斯、イーザーエルジャパンほか				
30	バンテック	462.41	97.78	98.60	55.86	47.83	80.35	81.99	横浜市	05.03	79,724	2,626	1,413
		運送、梱包、倉庫		バンテックホールディングス (100%)					日産自動車、日本コカ・コーラ、日産車体、ジャスコ、菱食ほか				

社が今日、後を絶たない。確かに今回の調査でも港湾関連や航空貨物など、国際物流を主業とする物流企業は日系荷主企業のグローバル化の恩恵を受けて、軒並み業績を伸ばしている。

しかし国内物流で売り物となるノウハウを持たない物流会社は海外に進出して勝ちは薄い。拠点の開設費用や駐在員の人件費をペイさせるのは容易ではない。慣れない土地でのオペレーションには思わぬリスクも伴う。物流子会社の業績低迷の突破口は、国際物流よりもむしろ足元の親会社向け国内事業に眠っている場合が多い。

総合ランキング三位の電気硝子物流サービスは、それまで他の物流専門業者に流れていた分の親会社の国内物流を刈り取ることで、〇二年三月期に九三億円だった売り上げを三年で二二四億円にまで拡大させた。親会社の日本電気硝子は海外販売比率が六八%に達するグローバル企業で収益力は高いが国内市場の売上規模は低迷している。これに対して電気硝子物流の業務範囲は国内のみ。それでも物流子会社トップの地道な提案営業によって親会社を動かし、急成長を実現した。

物流業経営者の条件

連結経営の推進は物流子会社にとって両刃の剣だ。連結業績のお荷物になっている子会社の売却や清算が加速する一方、存続がいったん承認されれば、親会社の抱える経営課題のしわ寄せや合理性を欠いた指示に対する拒否権が高まる。自ら説得力のある施策を打ち出すことができれば親会社の協力も得やすくなる。

物流子会社の経営トップの手腕が命運を左右する。親会社の人事レースから外れて子会社に天下り、大過なく任期を過ごすことだけが目的となったトップで